



## 「ずっと、このまちで暮らし続けたい」を 応援します

台東区立台東病院・老人保健施設千束 看護介護部 細川信康

新年明けましておめでとうございます。今月担当させていただきます細川信康と申します。私は2019年3月に研修センターを修了、2020年3月に卒後臨床研修を修了、現在は当施設の看護介護部に所属し、特定ケア看護師として施設横断的に活動しております。

私が勤める施設は東京スカイツリーを眼前に望み、東京浅草に近く、かつて遊郭が存在した吉原に建つ、高齢者慢性期を対象とした病院・老健併設のケアミックス型施設です。都心がありながら、春は隅田川の桜、おいらん道中、三社祭、夏はあじさい祭り、朝顔まつり、ほおずき市、隅田川花火大会、秋は酉の市など一年を通じて多くの伝統的な祭事が続く、今なお江戸風情が色濃く残る地域です。また、近くには日本高度経済成長を支えた方々が多く住む「ドヤ街」山谷地区があります。当施設の患者さん・利用者さんの多くはこのような地域の住民の方々で、生まれも育ちも、そして亡くなる時もずっと浅草という方も少なくありません。「『ずっと、このまちで暮らし続けたい』を応援します」は当施設の理念です。「ずっと、このまちで暮らし続けたい」と願う患者さん・利用者さんの想いに応えられるよう日々丁寧な関わりを心掛けています。

まずは私が特定ケア看護師を目指した動機をお話ししようと思います。私たち看護師はいつも患者さんのすぐそばで仕事をしています。その中で、「あれ、いつもと違う」と患者さんのちょっとした変化に気付くことがあります。看護主任として勤務していると、病棟スタッフか

ら「〇〇さん、昨日から微熱が続いているんです」や「□□さん、いつも全部食べるのに今日は食事を残しているんです。何か元気がないような気がします」など患者さんのちょっとした変化を相談されることもあります。バイタルサインが大きく崩れていなかったり、他の症状に乏しかったりすると、医師に報告するまでもないように思い、そのまま様子を見ることがあります。しかしその後肺炎を起こしていたり、消化管出血していたことが分かり、患者が急変や重症化した経験がありました。「患者の変化に気付いていたのに、なぜ分からなかったのだろう」と思ったことも少なくありません。そのような経験から私はもっと患者を看れるようになりたい、病棟スタッフの力になりたいと考え、この研修を受講しました。

現在、私は一般病棟を中心に施設横断的に活動しています。活動内容としては、各科主治医とともに入院患者の全身管理を行っています。特に手術目的に入院した整形外科患者の周術期スクリーニングに力を入れています。当院は高齢者を対象としており、整形外科手術目的の患者でも、同時に複数の内科疾患を抱えている方も多くいます。受傷や手術を契機に内科疾患が増悪してしまう方、逆に内科疾患の増悪により転倒転落して受傷し入院される方もいます。そのような患者を整形外科医師とともに対応し、必要であれば内科医師につなげていく活動をしています。手術目的以外の整形外科患者でも入院中に新規の内科プロブレムを発症する、もともと抱えている内科疾患が急性増悪することが



下腿褥瘡のデブリードマンの様子



当院の隣にある浅草鷲神社(西の市御本社)

あるため、そのような患者への対応も行っています。また内科で入院した患者のメジャープロブレムの診療に主治医が専念できるように、それ以外のマイナープロブレムにも対応しています。例えば、低体重低栄養患者に対する栄養管理、嚥下障害のある患者に対する食形態の検討、壊死組織の除去や陰圧閉鎖療法が必要な褥瘡への治療的介入、気管切開カニューレの交換、人工呼吸器装着患者の離床・入浴介助・人工呼吸器からの離脱訓練などを行っています。併せて前述したような患者への自身の介入を通して現任教育や新人教育にも携わっています。実際に現場の看護師に、私が患者をどのような視点で観察し、どのような介入を行っているのかを見てもらい、一緒に実践することで、現場の看護の質の向上につなげられるような活動を続けています。今年度は当施設の特定ケア看護師4期生が臨床研修中であり、また他の研修生の研修受け入れも行っており、その支援も行っています。特定ケア看護師一人ひとりの活動だけでは、その量もその範囲もとても限られますが、現場の看護師や特定ケア看護師の後進を育成することにより少しでもその活動が広がれば、患者とその家族が安全で安心できる入院生活の提供につながると考えております。

私の今後の課題の一つに、特定ケア看護師の活動の効果を目に見える形にすることが挙げられます。医療・看護の質を評価する目安としてQuality Indicatorがあります。特定ケア看護師の活動が、施設で提供している医療・看護にど

れぐらい貢献できたかはこのQIを測定することで可視化できるかもしれません。例えば、褥瘡発生率、転倒転落発生率、身体抑制率、各種感染発生率、平均在院日数、予定外再入院率、死亡退院患者率などが挙げられるでしょうか。どの項目も特定ケア看護師の活動だけで大きな変化を起こせるものではありませんが、患者一人ひとりを丁寧に「診る」「看る」ことで、その改善に寄与できると考えています。私たち特定ケア看護師の活動は医療・看護の質を今よりもさらに高めるためのQC活動と考えています。

最後に、当協会特定ケア看護師の目的は、「医療の提供がままならない山間・へき地・過疎地・離島における医療の提供を促進するために、医師の指示のもと、国が定めた21区分38の特定行為を実施し、かつ看護の視点で対象の生活を整えることと併せて、地域の健康を保持・増進すること」とされています。「診る」と「看る」を併せ持つ看護師として、自施設内のみならず、地域支援にも従事することが求められています。特定ケア看護師の日々の活動の延長線上には地域支援があるのです。どのような地域にも「ずっと、このまちで暮らし続けたい」と願う住民の方々がいらっしゃいます。自施設内での日々の活動だけに満足することなく、そのような住民の方々の想いにも応えられる、医療の提供がままならない地域での支援にも耐え得る特定ケア看護師となれるよう精進していきたいと考えております。